

第五回 河北町立小中学校整備委員会

日時：令和 7 年 1 0 月 3 1 日（金）

午後 3 時 3 0 分～

場所：河北町役場 3 階 3 0 1 会議室

次 第

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 協 議

（１）町民向け説明会について

（２）基本計画の検討について

（３）その他

5 その他

6 閉 会

河北町立小中学校整備委員会 委員名簿

No.	氏 名	委員区分	備 考
1	真木 吉雄	学識経験者	
2	岡田 桂司	地区住民代表	区長会副会長(西里支部長)
3	佐藤 眞潮	地区住民代表	区長会長(溝延支部長)
4	太田 勝志	地区住民代表	区長会副会長(谷地副支部長)
5	布川 雄二	地区住民代表	区長会副会長(谷地支部長)
6	岡崎 喜代高	地区住民代表	区長会 (谷地西部地区)
7	中野 劦	地区住民代表	区長会副会長(北谷地支部長)
8	秋場 一憲	小中学校長	校長会長 (谷地南部小学校長)
9	原田 正明	小中学校長	校長会副会長 (河北中学校長)
10	岡田 良彦	保護者代表	西里地区
11	鈴木 幸二	保護者代表	溝延地区
12	岸 大地	保護者代表	谷地中部地区
13	佐藤 衛	保護者代表	谷地南部地区
14	齋藤 耕宏	保護者代表	谷地西部地区
15	縄 源太	保護者代表	北谷地地区
16	志田 道広	保育施設設置者代表	かほくあいこども園園長
17	鴨田 望	学童クラブ指導者代表	さくらクラブ施設長

事務局

	氏 名		備 考
	板坂 憲助	事務局	教育長
	宇野 勝	事務局	学校教育課長
	森 暢仁	事務局	学校教育課 教育主幹
	鈴木 玄輝	事務局	学校教育課 指導主事
	齋藤 淳	事務局	学校教育課課長補佐兼教育総務係長兼教育振興係長
	阿部 裕介	事務局	学校教育課 教育振興係主査

河北町立小中学校整備についての説明会

資料No.1

参加人数

(単位：人)

日時			会場	事前 申込数	成人			子供			計			参考
					男	女	計	男	女	計	男	女	計	うち事前申込有
9月29日	月	19時～	西里農村環境改善センター 農事研修室	4	5	2	7	0	0	0	5	2	7	4
10月1日	水	19時～	サハトベに花 交流室	19	7	8	15	2	0	2	9	8	17	10
10月6日	月	19時～	北谷地構造改善センター 研修室	8	4	2	6	0	0	0	4	2	6	4
10月9日	木	19時～	溝延研修センター 研修室	10	5	2	7	0	1	1	5	3	8	4
10月13日	月	14時～	サハトベに花 交流室	22	8	9	17	1	2	3	9	11	20	17
計				63	29	23	52	3	3	6	32	26	58	39

質問・意見等概要

統合について

※サハト①：10/1(水)、サハト②：10/13(月)

番号	内容	回答・対応	会場
1	<p>子供の少ない小学校の保護者としては、なるべく早く小学校統合してほしい。</p> <p>中部小を使って早く統合できないか。新しい施設でなくても良いので、早くしてほしい。</p> <p>もしくは、小さい学校同士をまず統合するなど、段階的に統合などもできないか。</p>	<p>中部小では、小学校全員を収容することが施設的に無理である。また、これまで学校のあり方検討委員会の中で、段階的に統合するやり方も検討されたが、2回統合に該当する子がでてくる可能性もあり、子供の負担を考え一校に統合することとなった。</p> <p>これまでの議論で、どこかの小学校に吸収合併のような統合は嫌だ、同時に全部の学校を統合してほしいという意見があった。</p> <p>また、中部小学校に統合すると、我々が進めようとしている小中一貫教育が分離してしまうことになってしまう。</p>	西里
2	<p>中学生も少なくなっているのに、中学校の教室空いているのではないか。そこを活用して小学校の統合はできないか。</p>	<p>現状、普通教室として使われていない教室については、特定の授業のための教室として活用している。（英語の教室、社会の教室など）生徒はその授業の際は、その教室に移動して授業を受けている。また、小学生が使うとなると、水回りの高さなど、施設を小学生用にリフォームも必要となってくる。そういった経費も考えれば、新しい施設を整備したほうが良いと考える。</p>	西里 サハト①
3	<p>谷地中部小学校に入れないか、予算的な比較、メリットの検証についての資料があるとよかった。財政的な面でも、経常収支比率など総合的に検討して、教育面のメリットと財政的な負担をどちらを取るかなどの比較があっても良いのでは。</p>	<p>これまでの経過で、あり方検討委員会の中ではどこかの小学校に吸収合併は嫌だ、新しい場所で新しい小学校に統合という意見が多かった。</p> <p>予算的な面と教育を比較し、天秤にかけるのは難しいと思っている。まずは、小学校の統合を急がなくてはならない状況なので、このようにいたっている。</p>	サハト②
4	<p>意見として、どこかの小学校に吸収合併が嫌だという意見と、財政負担が増えることにより行政サービスが悪くなるかもしれないということを説明し、どっちが良いかと説明するべきだと感じた。</p>	<p>意見として、参考にさせていただく。</p>	サハト②

5	案として、中学校については、修繕等したうえで補助金をもらえるようになるまで、使っていくが必要になる。まずは統合については、谷地中部小学校を増築やリフォーム等を行い、活用すると一番財政負担が少なくなるのではないかと。既存の小学校への統合が嫌だという意見があったとのことだが、財政負担についても説明すれば、理解をもらえるのではないかと。	意見として、参考にさせていただく。	サハト②
---	--	-------------------	------

小学校について

番号	内容	回答・対応	会場
6	統合した場合、通学はどうか。スクールバス対応となるのか、保護者送迎か。	スクールバス対応などは、今後詳細を検討していく。2km以内は徒歩を想定しているが、現状バスが2台しかないので、今後増やしていくことも検討していく。	西里 サハト①
7	基本コンセプトの中で、一人一人の発達段階や特性に応じたあったが、支援が必要な子もいると思う。何か特別なことをする想定はあるのか。	特別支援教室の子も増えている。それぞれの条件に応じた特別支援の学級数、種別を用意したいと思っている。また、学校に行くのが難しい子、不登校の子にも対応していきたい。	北谷地
8	プールについてはどう考えるか。	新しいプール整備は考えていない。町民プールの活用を検討している。深さ調整台の使用や、屋内プールの活用等も検討していきたい。	北谷地
9	将来的な中学校整備をしている間は、小学校のグラウンドは使えないということか。何年くらい想定でされるか。体育に影響はないか。	その期間は、中学校部分のグラウンドの活用が想定される。工事に3年間、既存中学校の解体、グラウンド整備に1年間と想定すれば4年間となる。小学校部分のグラウンドがなくても、体育については、中学校のグラウンド、体育館、オープンスペースでの活動など、運用の中で対応は可能と考える。	北谷地
10	小学校と中学校は体育館がそれぞれ必要になるのか。	それぞれ必要になる。学校整備にあたっては、それぞれ必要な施設に加えて、共有できる部分も整備していく。	北谷地

11	今後、設計の段階での話になるかと思うが、子供の数どおりの部屋数ではなく、余白のスペースのようなものがあると、子供もノビノビと過ごせると思う。 また、設計については町民の意見も反映されるのか。	教室については、普通教室、特別教室、特別支援教室に加え、多目的スペースのようなものを取り入れたいと思っている。小中との交流や、地域のふるさと学習などでも活用が考えられる。今後、現場の先生の意見も取り入れながら進めていきたい。設計についての説明会も開いていきたいので、是非参加いただきたい。	北谷地 溝延
12	教育資源の集中という話もあったが、町で採用している職員等について、一校に統合した場合、人数が減るのか。それとも、一校になって充実していくのか。	町では学習生活指導補助員として20人ほど採用している。学校が統合したとしても支援がマイナスにはならないよう、必要な人数は維持していきたい。その他、業務員、給食配膳員も町で採用しているが、統合により減らせるのではないかと考えている。	溝延
13	各保育所、幼稚園等から小学校に入学する際、それまでの園のお友達がバラバラになるという現状である。小学校が統合となれば、完成するまでの間に、是非小学校同士の交流をしていただきたい。	行事や学習面も含めて交流が必要と感じている。現在も交流を行っているが、今後の統合に向けて、交流をもっと進めていくべきと考えている。	サハト②
14	現在の職場の学校が、子供たちが700人を超える規模である。先生や職員の駐車場が大変な状況である。新しい学校の駐車場について、しっかり検討していただきたいという意見である。	意見として、参考にさせていただく。	サハト②
15	学校整備に伴い、部活ができなくなったり、運動できない環境になる子どもでてる。是非、建築の際は現場の先生の声聞いたうえで、運動環境について考慮いただきたい。 また各種導線や配置なども不便にならないよう、現場の声はしっかり聞いてもらいたい。	現在は、建物のゾーンの括りで検討をしている。それらがイメージできてきたときに、現場の先生の意見を聞く予定をしている。	サハト②

中学校について

番号	内容	回答・対応	会場
16	中学校のほうで、小学校より古い現状で、まず最初に小学校を整備するとのことだが、中学校の施設は大丈夫なのか。	中学校については、修繕等対応が必要となってくる。学校整備については、まずは小学校の統合の話から始まっているため、小学校の整備が先になる。中学校の修繕は計画的に行っていく。	西里
17	中学校の敷地に小学校を整備するとなると、グラウンドがなくなるのか。	どこに整備するかは、今後の設計の段階で決まってくる。一つの案としては、今の野球練習場、テニスコートのところに建てるという考えがある。その場合は、野球部、テニス部の活動場所について検討していかないといけない。	西里
18	中学校が一番古いなか、今後16年間使っていくことになっている。新しい中学校の整備が早まる可能性はないのか。	可能性はゼロではないと思う。現在の案は、庁舎整備の地方債の償還が終わる年度に合わせて設定している。中学校について耐力度調査を行うと、現在補助金の対象にならない。今後、この調査の結果により、補助金の対象となったり、有利な起債制度ができるなど、財源に目途が立つようになれば、R23年度よりも前倒しの可能性もあると思う。	北谷地
19	将来的に中学生が少なくなってくれば、整備する中学校の規模も小さくなり、財政的な負担も小さくなるということは想定されるか。	子供の数が減れば、施設の規模も小さくなるので、その可能性はある。しかし、物価が上がっている現状のなか、将来的に物価がどうなるか予測できない部分もある。	北谷地
20	中学校の耐力度調査の話があったが、結果次第で補助金の対象となるとのことだが、いつごろだと対象になりそうかの見込みはあるのか。	中学校の耐力度調査については、基準となる点数を下回れば、国の基準の1/3がもらえる補助の対象となる。具体的にいつ該当してくるかは見込めない。	サハト②
21	中学校は今の学校をまだしばらく使っていくとのことだが、中学校自体は古いと思うが、トイレなど、障害や性の不一致の子などに対応しているのか。	中学校のトイレについては、和式から洋式に変えたりはしているが、障害や性の不一致には対応がなっていない部分がある。	サハト②
22	課外活動のスポーツ文化活動について、スポ少・部活などどうなっていくのか。活動場所や、どうやっていくのか。小学生中学生が一緒になってやっていくのかなど聞きたい。	部活動について、地域展開ということで徐々に進んできているが課題がある。今後、やりながら課題等対応して進んでいく感じだと思う。	サハト②

小中一貫教育について

番号	内容	回答・対応	会場
23	小中一貫校の分離型などもあるなか、施設一体型を選んだメリット、デメリット、予算的な面ではどのような検討であったのか。	施設一体型とすることで、学びのつながりがすぐ見られる。子供同士の交流や、小中の先生がすぐ近くにいるということで、情報交換などの面でもメリットが大きい。	サハト②
24	小中9年間の教育を考えたときに、9年間の柱、核となるものをしっかりと作ってほしい。町ぐるみで取り組んでいる事例もあるようなので、こういったものを作ることで、それが学校の目玉となり、住民にももっとわかりやすく理解してもらえるのではないかな。	町の第3次教育振興計画が令和9年から見直しとなる。そこに小中一貫教育の柱となる部分などを考えながら、しっかり検討していきたい。	サハト②
25	義務教育学校は、将来的に各学年2学級になったときにでも検討してもよいのではと思う。	小学校中学校それぞれの良さを活かしていきたいので、施設一体型小中学校を考えている。	サハト②
26	まずは小学校整備となるが、中学校も合わせて進めるようにしてもらいたい。イメージだけでも。	将来的には小中を新しく一体的なものにしていきたいが、財政的な要因もあり、まずは小学校からということになる。イメージとして、新しい小学校と新しい中学校がどうなるかというものを、設計の段階で全体的なものは作りたい。	北谷地
27	段階的な整備として、まず小学校を中学校に接続、将来的に小学校に接続した新しい中学校を整備するというやり方の事例はあるのか。	全く同じ事例はあるかどうか分からないが、古い学校に新しい学校を接続するという事例はある。先日視察で見た事例では、古い小学校に新しい校舎を接続し、義務教育学校ということで整備をしていた。	溝延

計画・財政面等について

番号	内容	回答・対応	会場
28	議会からはこういった意見がでたのか	中学校の修繕等の対応の心配する意見、財源を示さず議論を進めてきたことに対する進め方についての意見、段階的に整備することでの目指そうとしている小中一貫教育に影響はないのか、小中一気に建てたほうが良いのでは、中学校の修繕計画をしっかりと欲しいなどがあった。	溝延
29	第8次河北町総合計画後期基本計画の策定を進めていると思うが、この学校整備事業についての内容など、どのように反映されるのか。	本文の中に、基本コンセプトまでは掲載はされない。基本構想・基本計画に基づき、整備を進めるといったような表現になる予定。地方債の推移についても、町の他の事業分が今回の資料では反映されていないので、後期基本計画とはズレてくる。	溝延
30	基本構想・基本計画について、年度内策定とあったが具体的にいつごろ策定されるか。	案をまず策定し、遅くとも1～2月頃にパブコメ、3月までには策定したい。	溝延
31	基本構想・基本計画策定した後も町民説明会は予定しているのか。	開催についての具体的なところは検討させていただく。	溝延
32	概算事業費について、建設費など今後の物価高騰は見込んでいるのか。	事業費見込みの単価は今現在のもので試算している。今後の高騰などは見込んでいない。また、この試算のほかに地質調査後に杭打ちの経費など、追加で必要となる可能性がある。	サハト②
33	借金の面から比較すると、今回の検討結果のようになると思うが、歳入についても推計し検討していく必要があるのではないか。	意見として、参考にさせていただく。	サハト②
34	小学校が統合することによる経費の削減額はいくらになるか。	小学校統合による削減額は見込んでいない。	サハト②

説明会について

番号	内容	回答・対応	会場
35	今回の説明会について、中々参加が難しい時間帯である。	忙しい時間帯の開催となり申し訳ない。平日の夜に來れない人のために、休日の日中にサハトで開催も予定させていただいた。	西里
36	説明会の資料について難しい部分がある。事前にネットでアップなどすれば、資料を読んで説明会に臨めるので良いと思う。	意見として、参考にさせていただく。	サハト②
37	ネットを活用してオンライン配信などもあれば、より多くの家庭で見ることができるのでは。 今回の会議録などもHPで公開していただきたい。	意見として、参考にさせていただく。	サハト②

その他について

番号	内容	回答・対応	会場
38	町の借金が大きくなるので、不安を感じる町民がいると思う。その中で、使われなくなる小学校の活用について、何か町の収入源になるような事業を検討していくと、町民の不安感も少なくなると思う。	現在、統合後の小学校の活用は白紙である。今の学校は避難所としての役割もある。各地区には地区公民館となるセンターもある。それらの関連性などもしっかり考慮して検討していきたい。	サハト②
39	小中一貫となると9年間一緒の人間関係になっていく。その中で、放課後などの子供の居場所をどう考えるか。学校に行けない子の居場所としてフリースクールなどはどうか。	放課後については、学童をまずは第一に考えている。フリースクールについては、町では補助はないが、条件があれば県の補助対象となる場合がある。町でも何人か学校に行けない子はいるが、在宅で通信制でしているようだ。今後町で増えてくれば、検討する必要があるかもしれない。	サハト②



○前回の主な意見と計画への反映

○基本計画の検討





第4回整備委員会での基本計画に関する意見（概要）

テーマ1 部活動専用の野球場、テニスコートの必要性の確認

- ①これから5年で生徒が減っていくことを考慮して進める必要がある
- ②サン・スポーツランドは、移動が難しい（バスで通れる道がない等）
- ③サン・スポーツランドは、防球ネットが低いので利用するなら改修
- ④中央公園を有効活用するのがよい
- ⑤中央公園を利用する場合、歩道橋整備等、安全対策を検討
- ⑥中央公園の距離以上では部活動は不可能

⇒今後、部活動の地域展開、生徒数の減少を踏まえて、敷地から移動して活動することを踏まえて検討していく



第4回整備委員会での基本計画に関する意見（概要）

テーマ2 町民プールの授業での利用について

⇒バスで移動する場合、運転手確保の課題を解決する前提で進めていく



第4回整備委員会での基本計画に関する意見（概要）

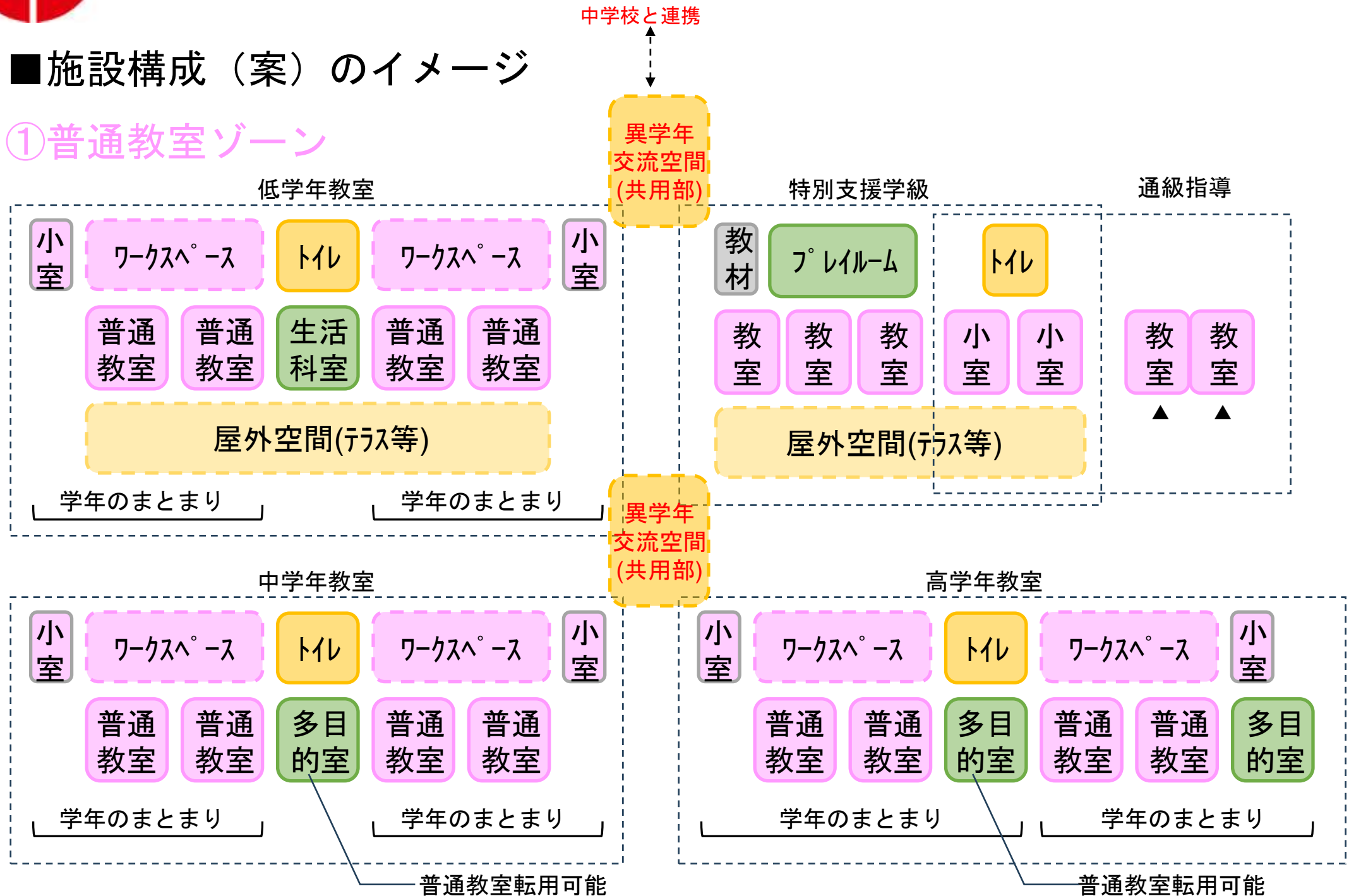
テーマ3 施設構成について

- ①河北町には立派な図書館があるので、**図書室は学校専用**でよい。
- ②**異学年児童同士の交流促進**のため、低・中・高学年・特別支援学級スペースの間にフリースペースを設けてはどうか。(意見書)
- ③**地域住民が日常的に来校し子供たちと関わる機会**を創出するよう、1階にフリー交流（展示）スペースを設けたり、対話を促すテーブルやベンチなどを設置したりしてはどうか。(意見書)
- ④障がいをもった方々も来校しやすくするためのスロープやエレベーターなども完備してはどうか。(意見書)
- ⑤安心・安全の観点から、電磁ロック式の昇降口や防犯カメラ設置、各教室・特別教室・体育館等に冷暖房完備が必須ではないか。(意見書)
- ⑥災害対応、**避難所となる学校施設**の検討が必要になる。



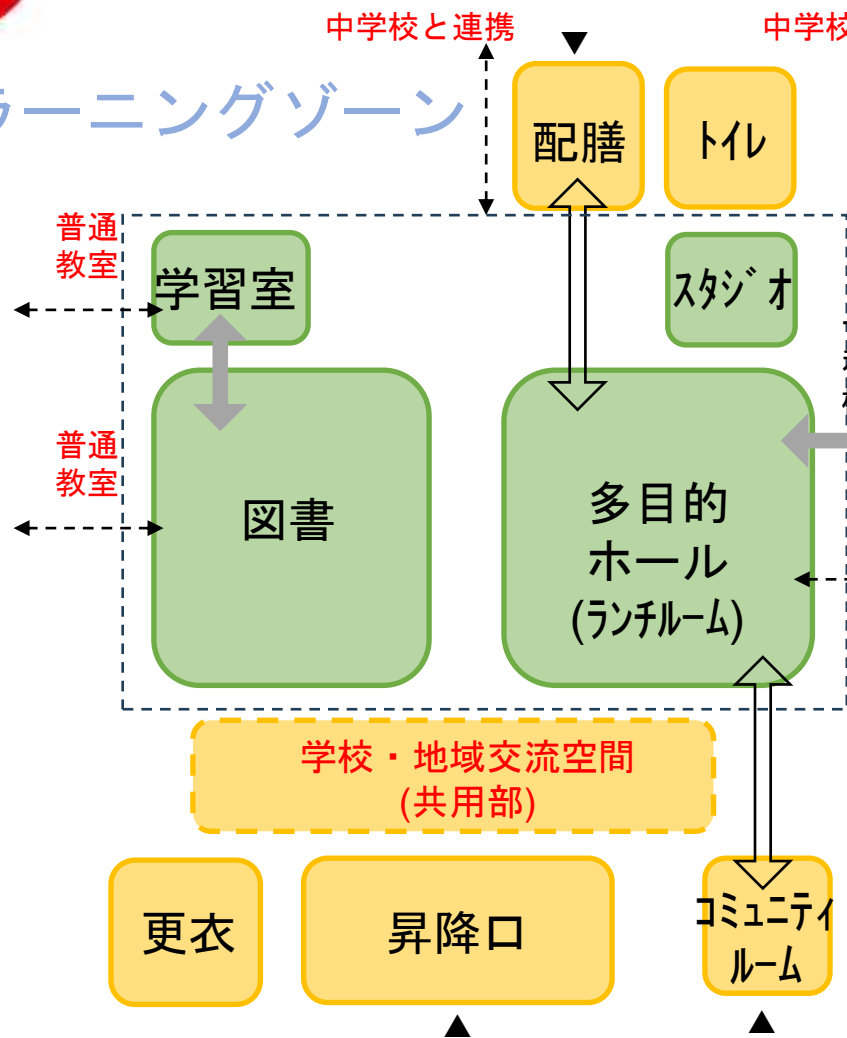
■施設構成（案）のイメージ

①普通教室ゾーン

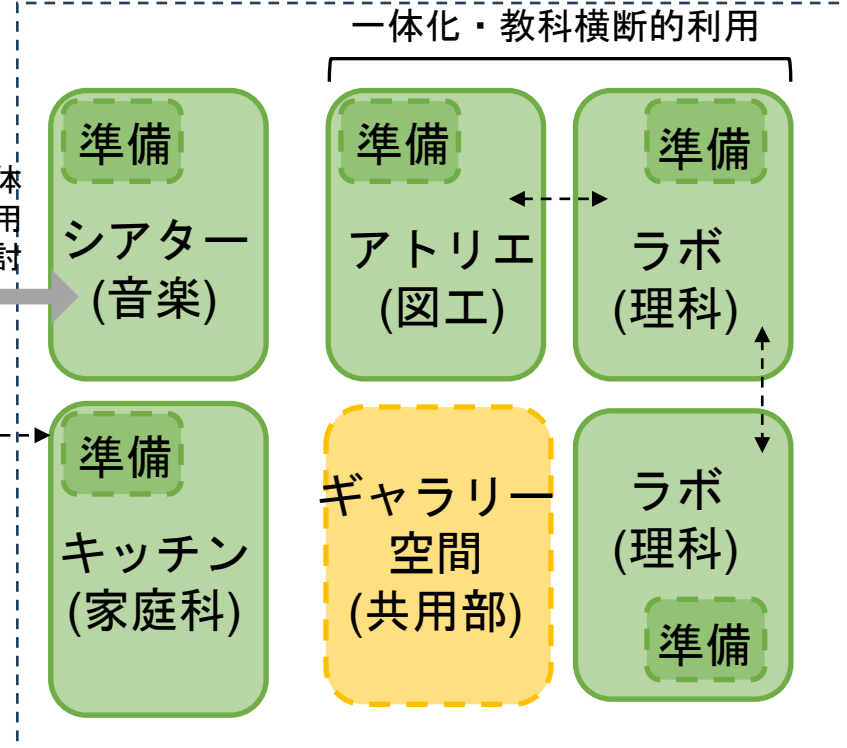




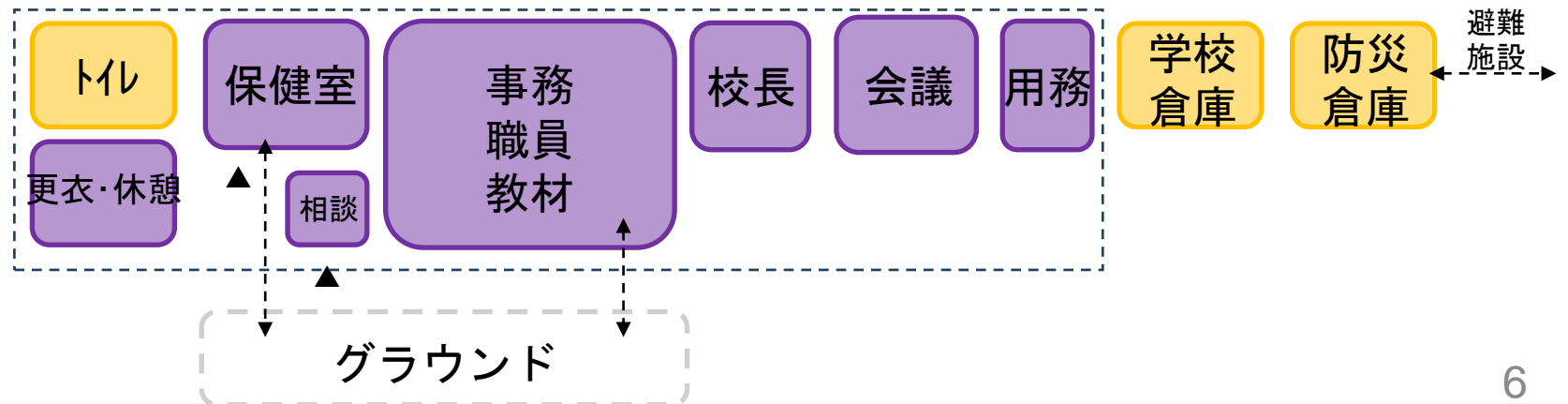
②ラーニングゾーン



③特別教室ゾーン

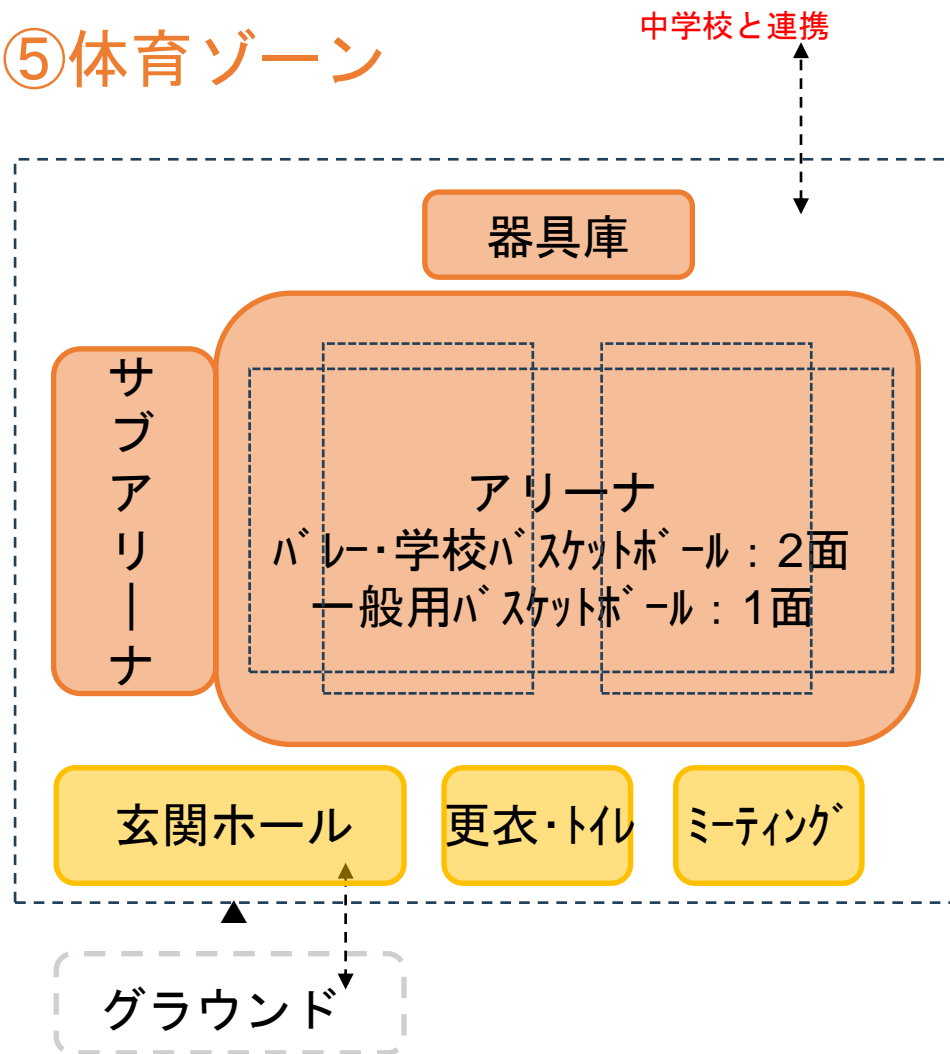


④教職員ゾーン・その他





⑤体育ゾーン





災害に強い学校施設整備について

災害発生から避難所の解消までのプロセス（4つの段階（フェーズ））

救命避難期（発災～避難直後）

* 災害が発生した直後から児童生徒や教職員、地域住民が一時的に災害から難を逃れるための緊急避難場所に避難するまでのフェーズです。このフェーズでは、災害により停電になっても、災害に対する初期情報を確実に入手して、円滑な避難行動を取るための対策が求められます。

生命確保期（避難直後～数日程度）

* 児童生徒等、教職員、地域住民が避難してきてから救援物資が届き始めるまで、又は高台や屋上等から救助されるまでのフェーズです。このフェーズでは、必要最低限の避難生活を確保するための食料など物資の備蓄やトイレの対策、情報入手や救援要請のための情報通信設備などの対策が求められます。

生活確保期（数日程度～数週間程度）

* 救援物資が届き始めてから、教育活動を再開するまでのフェーズであり、漸次インフラが復旧することが想定されます。このフェーズでは、避難活動に必要な最低限の機能に加え、居住スペースにおけるプライバシーの確保や畳スペースの確保など、より良好な避難生活を送るための対策が求められます。

教育活動再開期（数週間程度～数か月間程度）

* 教育活動を再開してから、避難所としての役割が解消されるまでのフェーズです。この時期には、避難所機能が継続する中で、教育活動を円滑に行うための避難所と教育活動のゾーン分けや動線の工夫などを行うことが重要です。

* ここに示した期間は、東日本大震災で避難所となった学校施設の状況の一例を示したものです。



■避難所となる学校施設に必要な機能

耐震性・耐火性、バリアフリー、断熱性

* 学校施設としての基本性能である、非構造部材を含めた耐震性・耐火性、バリアフリー、断熱性を向上させることは、避難所としての防災機能を強化するためにも重要です。

情報通信

- * 救命避難期には、災害情報の入手と校内への伝達ができるよう、防災行政無線の受信設備、停電に対応した校内放送、拡声器を整備しておくことが重要です。
- * 役場等との連絡のため、相互通信可能な無線設備等を整備しておくことが重要です。

備蓄倉庫

* 想定される避難者数に応じた備蓄を、災害に対し安全な場所に確保しておくことが重要です。

電気・ガス

- * 照明やその他の機器の電源の確保のために、可搬式の発電機等を備蓄しておくことが重要です。また、自立運転可能な太陽光発電機を整備しておくことも望まれます。
- * 普段使用している熱源が使えなくなることを想定し、炊き出しなどに必要な熱源をLPガスやカセットコンロなどにより確保しておくことが重要です。

トイレ

- * 断水なども想定し、マンホールトイレや簡易トイレなど複数の対策を組み合わせ、必要なトイレの数を確保することが重要です。
- * プールの水を、配管やポンプによりトイレやマンホールトイレに流せるようにしておくことも有効です。



— 学校再開に向けた施設面の課題と方策 —

被災地における学校再開に向けた施設面での課題と工夫に関する調査研究

課題

1. 安全点検及び安全区域と立入禁止区域の区分け

- 教職員による点検では、安全が判断に迷う場面もあるため、専門家による速やかな二次点検を得られる体制が必要。

2. 避難所に開放するエリアの設定

- 学校施設の利用方針が未策定等で、避難者の受入れに際し、混乱したケースあり。
- 地域住民が先に学校にたどり着いたが、どこが避難所エリアで、どこが開放しないエリアかわからないため、避難者が普通教室や職員室等までに入り込み、避難生活を送るケースあり。
- 体育館に空調設備が整備されておらず冷え込んだため、空調設備の設置されている普通教室に避難したケースあり。

3. 教育活動エリアの確保

- 学校再開に向けて教育活動エリアを確保するためのノウハウが不足。

4. 教育活動エリアの拡充及び本格的な復旧

- どのように避難所エリアの縮小、教育活動エリアの拡充を進めるかのノウハウが不足。

平時から実施すべき取組

1. 安全点検及び安全区域と立入禁止区域の区分け

- 以下の事例なども参考に、地域の実情に合わせ、発災後速やかに点検等の実施に協力を得られる体制を平時に構築。＜◎教育委員会、建設部局＞

—工夫した事例—

- ・地元の専門団体と協定を結び、点検やその後の応急復旧に優先的に取り組んでもらうよう体制を整備
- ・日頃の維持修繕等から学校施設の整備等に協力いただいている業者をリストアップ
- ・庁内の部局間で発注実績のある業者のリストを共有

2. 避難所に開放するエリアの設定

- 避難所エリアと学校再開を見据えて開放しないエリアをあらかじめ想定し、防災部局など関係者と共有。＜◎学校（管理職）、防災部局、教育委員会、地域＞
- 避難者数に応じ、余裕教室等を避難所エリアに段階的に開放していく、柔軟で多段階の計画にすることも重要。＜◎学校（管理職）、防災部局、教育委員会＞
- 教職員不在時に災害が発生することも想定し、防災部局は、避難所開設・運営訓練等の機会を利用し、地域住民に対し、避難所エリアとして開放される範囲と開放されない範囲を周知。＜◎防災部局、学校（管理職）、教育委員会、地域＞
- 教育委員会は、体育館、保健室等当初から避難所エリアに開放する諸室はもとより、避難者数に応じて段階的に開放する諸室についても、災害に備え、空調設備を整備。＜◎教育委員会＞

3. 教育活動エリアの確保

- 国は、過去の災害での学校や教育委員会の対応やノウハウについて取りまとめ、全国の教育委員会に周知する。＜◎文部科学省＞
- ・学校再開時期の設定や教育活動エリア確保に向けた防災部局等との調整の進め方
- ・学校再開までに対応すべき応急復旧の程度、業者の確保・発注等
- ・限られた教育活動エリアの中での具体的な教室等の割当て
- ・1つの学校施設で複数校を再開させる際の、当該学校間での割当ての調整

4. 教育活動エリアの拡充及び本格的な復旧

- 段階的に避難所エリアを縮小し、教育活動エリアを拡充した過去の災害の事例を国において収集し、全国の教育委員会に周知する。＜◎文部科学省＞



基本計画の検討

- テーマ
- 1) 計画目標として具体的に加えたいこと
 - 2) これまでの委員会で言い足りなかったこと